

【調査速報】

よしみにし
守山市吉身西遺跡

古墳時代と 奈良時代の祭祀



吉身西遺跡



古墳の周溝から出土した5世紀末の甕

人が囲っている部分が古墳の墳丘



古墳の周溝から出土した6世紀後半の甕

●滋賀県成人病センターの改築にともなう吉身西遺跡の発掘調査では、古墳時代前期の竪穴住居や方形周溝墓、古墳時代中期の円墳、古墳時代後期の竪穴住居や土器埋納遺構、奈良時代から平安時代の掘立柱建物や土器埋納遺構などがみつかりました。

古墳の墳丘は削平によって失われ、周溝が部分的に確認できただけです。墳丘の直径が約17mの円墳であったと推定できます。周溝の中から、供献されたと考えられる5世紀末頃の甕(はそう)と6世紀後半頃の甕が出土しました。5世紀末の甕は底部を、6世紀後半のものは口縁部を打ち欠いていました。このことから、古墳は5世紀末頃に築造され、6世紀後半頃にいたっても祭祀の対象として土器を供献していたことがわかります。また、2回目の土器が供献される時には、古墳のそばに竪穴住居が作られ、古墳の北側では意図的に口縁部を打ち欠いた須恵器の壺を埋納した遺構がみられるなど、古墳と居住地が密接な関係にあったことがうかがえます。

古墳の北西側から、奈良時代の土器を埋納した遺構が1基みつかりました。須恵器の鉢を穴の中に据えて蓋を被せていました。蓋の上部は破損してなくなっていますが、その一部が鉢内部の底付近に落ち込んだ状態でみつかりました。このような土器の状況から、長い間、鉢の内部が空洞であったことがわかります。残念ながら中身は残っていませんでしたが、出産時の胎盤を納めた胞衣(えな)壺あるいは建物を建造する時の地鎮具のような祭祀に用いられたものであったと考えられます。

(写真：滋賀県教育委員会提供)



意図的に打ち欠いて埋納していた壺



奈良時代の土器埋納遺構

みて！ ふれて！ 体験して！



滋賀県埋蔵文化財センターのご案内

大津市瀬田の文化ゾーン内にある滋賀県埋蔵文化財センターでは、昭和55年4月1日の開所以来、県内各地の遺跡や遺物を調査・研究するとともに、発掘された遺物や調査記録の管理・保管をしています。また、広く一般の方々に埋蔵文化財への理解と愛護精神を深めていただくため、年2回開催する研究会や、滋賀県内からみつかった埋蔵文化財から滋賀県の歴史を学ぶことに主眼をおいたロビーでの常設展示、学校での出前授業や職場体験への協力、体験学習などさまざまな取り組みを行っています。



【ロビー展示】

県内各地の発掘調査でみつかった、遺跡や遺物を紹介する展示をテーマによっておこなっています。毎年、夏休み期間に開催する速報展「レトロ・レトロの展覧会」終了後に展示替えをおこないますので、ぜひおこしください。

事前に予約していただくと、展示解説もいたします。学校や公民館、郷土のことを勉強しているグループなど施設やグループ単位でお申し込みください。



【授業協力】

県内の小・中・高等学校や各種団体から依頼を受けて出前授業を実施しています。実際に発掘現場で調査に携わっている調査員が講師となって授業をおこないます。

縄文時代や弥生時代といった時代ごとのお話でも、昔の米作りなどといったテーマを決めたお話でも、埋蔵文化財に係わる内容のものであれば県内どこでも出張します。普段では間近に見ることがないような土器や石器を見たり触れたりして本物を体感することもできます。ぜひご利用ください。

【職場体験・校外学習】

中学生の職場体験を受け入れています。発掘調査で出土した土器などの整理作業や埋蔵文化財センターで日々行っている各種作業を体験していただけます。また、中学生の職場体験だけでなく、小学生を対象にした職場見学、高校生のクラブ活動などにも対応します。

【体験学習】

昔の人の技術や生活を体験学習を通じて紹介しています。石器作りや勾玉作り、古代の染色、鍛冶、デンプン作り、火起こしなどさまざまなメニューを用意しています。詳しくはホームページをご覧ください。



これら以外にも埋蔵文化財センターでは、さまざまな取り組みをおこなっています。ホームページでもご案内していますので、イベントなどについてはそちらでご確認ください。





源平合戦図 6 曲 1 双

滋賀県立琵琶湖文化館蔵

■源平合戦を描いた絵画は多くありますが、その描かれ方で大きく二分できます。一つは数多くの武勇伝を散りばめながら合戦の全体像を描くもの、もう一つは特定の武勇伝を大きく描くものとなります。

本品は後者となり、右隻には「一ノ谷合戦」から、源氏の武将として名高い熊谷直実が、沖に停泊している船に逃げようとしている平敦盛を呼び止めて、勝負を挑む様子が描かれています。直実は馬に乗り、右手には扇、左手には矢と弓をしっかりと握りしめています。両方の前足と後足が宙に浮いた状態で描かれる黒毛の馬は躍動感に満ちており、直実が平敦盛を猛スピードで追いかけてきたことを感じさせます。一方の平敦盛は、すでに馬に乗ったまま海を進んでおり、呼び止められたことで手綱を引いて振り返ったところです。

左隻には、「屋島合戦」からの一場面が描かれます。中央には馬に乗ったまま水に入り、今まさに弓で矢を放った武将が描かれます。これが弓の名手と名高い源氏方の那須与一です。与一は、平家の船の先に取り付けられていた扇を見事に射落としました。画面の右方には2艘の船が見えており、手前の船のすぐ先には射落とされた扇が宙を舞っています。

作者の狩野氏信（1615～69）は、狩野永徳の弟である宗巴種信を祖とする神田松永町狩野家の三代目です。金地の屏風に原色を多用した華やかな色調が目に見え、鮮やかな作品で、大胆な構図がより印象を強くしています。しかし、よく見ると武将の衣服や馬の飾りなどは細かく描写されるなど、大胆さと繊細さを兼ね備えた魅力あふれる源平合戦図だといえます。

本作品は、琵琶湖文化館の収蔵品を紹介する「近江巡礼 祈りの至宝展」（会場：島根県立古代出雲歴史博物館）の中で展示されますので、春先の出雲路へお出かけいただき、ぜひ会場でご覧ください。



源平合戦図 右隻



源平合戦図 左隻



滋賀県立琵琶湖文化館所が守り伝える美 「近江巡礼 祈りの至宝展」

会 期：平成 26 年 3 月 28 日（金）～平成 26 年 5 月 11 日（日）

会 場：島根県立古代出雲歴史博物館（島根県出雲市大社町杵築東 99 番地 4）

問い合わせ先：島根県立古代出雲歴史博物館（TEL0853-53-8600）

「もっと知りたい！」をお届けします♪



公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、キッズ・ファミリー向けの展示・体験学習イベントのほかに、文化財情報をもっと詳しく知りたい方のために「連続講座」を開催しています。講師は、発掘現場の最前線で活躍する当協会の精鋭調査員。汗水たらして調査した成果をわかりやすくご提供していきます。今年度は、かつて琵琶湖のまわりに多くみられた内湖にスポットをあて、「内湖と人びとの生活」というテーマで講座を開催します。

■内容 遺跡からみた歴史の本当の面白さをお楽しみください。

第1回：平成26年 5月10日（土）「琵琶湖の内湖とは」（横田洋三）

第2回：平成26年 6月 7日（土）「入江内湖と周辺の遺跡にみる人々の暮らし」（瀬口眞司）

第3回：平成26年 7月 5日（土）「松原内湖が支えた豊かな生活」（細川修平）

第4回：平成26年 8月 2日（土）「佐和山城・彦根城と松原内湖」（小島孝修）

第5回：平成26年 9月 6日（土）「内湖と古代荘園―曾根沼と東大寺覇流荘―」（濱 修）

第6回：平成26年 10月 4日（土）「信長と湖畔の城」（岩橋隆浩）

第7回：平成27年 1月10日（土）「大中の湖・小中の湖と縄文人の暮らし」（小島孝修）

第8回：平成27年 2月 7日（土）「学史に残る調査―大中の湖南遺跡の発掘調査 過去・現在―」（田中咲子）

第9回：平成27年 3月 7日（土）「内湖と丸木舟」（横田洋三）

◇受講料：講座全9回で5,000円（初回一括入金）

◇定員：100名（申込先着順）

※応募期間はすでに始まっていますので、参加をご希望される方は右記の問い合わせ先までお早めにお電話ください（定員に達しました場合はご了承下さい）。

◇時間：各回 13:30～15:30

◇会場：滋賀県立図書館 大会議室

（JR『瀬田駅』下車→帝産バスで約15分→『文化ゾーン前』下車徒歩5分）

◇お申し込み方法（電話受付のみとなっています）

*お申し込み時には①お名前 ②電話番号 ③ご住所をお伝え下さい。

◇お申し込み・問い合わせ先

*受付時間は土日祝日を除く 8:30～17:15

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 連続講座（077-548-9780）

新刊案内！

『紀要』第27号 できました。



しじみちゃん

待望の『紀要』最新号を刊行しました。本号は、縄文時代から近現代までの幅広い時代や種類の埋蔵文化財やその資料管理など、例年に比べて多くの論考があつまり、豊富な内容となっています。

紀要

縄文文化論の理論的基盤の整理	瀬口 眞司 (1)
―M. サーリンズ『石器時代の経済学』再読―	
鈴鹿山地を取り巻く縄文時代初期の人の動き	重田 勉 (7)
―相谷熊原遺跡の出土石器から―	
滋賀県の有舌尖頭器	加藤 達夫 (14)
―松原内湖遺跡出土事例をてがかりにして―	
組み合わせた船体の船	横田 洋三 (21)
―古墳時代の船体―	
新輪形石製品の意味を考えるために	細川 修平 (28)
国昌寺の創建と修造について	小松 葉子 (42)
―大津市鳥居川霊園集集遺物の整理から―	
古代の開発と神社本殿遺構	内田 保之 (49)
―金貝遺跡の調査から―	
「皇后宮」木簡とその時代	濱 修 (57)
湖西地域における山寺の城郭化	小林 裕季 (74)
近江出土の渡来銭貨	小島 孝修 (82)
滋賀県における近現代戦争記念碑	辻川 哲朗 (97)
―基礎的整理と課題の提示―	
保管資料の劣化と環境対策	中川 正人 (113)

27

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 2014.3

■収録論文

縄文文化論の理論的基盤の整理

―M. サーリンズ『石器時代の経済学』再読―

(瀬口 眞司)

鈴鹿山地を取り巻く縄文時代初期の人の動き

(重田 勉)

―相谷熊原遺跡の出土石器から―

(加藤 達夫)

滋賀県の有舌尖頭器 ―松原内湖遺跡出土事例をてがかりにして―

(横田 洋三)

組合せ式船体の船 ―古墳時代の構造船―

(細川 修平)

腕輪形石製品の意味を考えるために

(小松 葉子)

国昌寺の創建と修造について

(内田 保之)

―大津市鳥居川霊園集集遺物の整理から―

(濱 修)

古代の開発と神社本殿遺構 ―金貝遺跡の調査から―

(小林 裕季)

「皇后宮」木簡とその時代

(小島 孝修)

湖西地域における山寺の城郭化

(辻川 哲朗)

近江出土の渡来銭貨

(中川 正人)

滋賀県における近現代戦争記念碑 ―基礎的整理と課題の提示―

保管資料の劣化と環境対策

■価格・お申込みなど

◇価格など ☛ A4判並製版 122頁 価格600円（税込・送料別）

◇お申込み ☛ 公益財団法人滋賀県文化財保護協会 総務課（077-548-9780）まで。

*ホームページからも購入申し込みできます。☛ <http://www.shiga-bunkazai.jp/>